



北欧イノベーションエコシステムニュース

2021年、年初のコラムではまず2020年の北欧VC投資の動向を、ヨーロッパ全般、そしてCOVID以前の2019年との比較から検討します。

まずはヨーロッパとの比較から始めましょう。コロナ禍にもかかわらず、2020年に欧州テックスタートアップは国内外のベンチャーキャピタルから410億米ドルという記録的な資金調達を果たし、2016年の160億ドルから大きな飛躍の年となりました。これは5年間の年間成長率にして30%。しかしごく最近発表された欧州テックシーンを総合的にデータ駆動型分析した [Atomico report 2020](#) を見る限り、欧州の「先進国と後進国」ではかなりの格差があります。

一人当たりの累積投資額(2016-2020年)でリードするのは圧倒的に北欧諸国と英国/アイルランドです：スウェーデン(1位910ドル)、フィンランド(4位609ドル)、エストニア(6位493ドル)、デンマーク(9位278ドル)、ノルウェー(12位208ドル)。Atomicoが調査した欧州30カ国の一人当たり平均累計投資額は172ドルでした。

同様のーそしておそらく関連があるーパターンは国毎の一人当たりのスタートアップ数にも現れています。欧州スタートアップの首都に輝いたのは、人口100万人につき865社を輩出したエストニア。ついで3位にデンマーク(573社)、4位にフィンランド(525社)、6位スウェーデン(429社)、11位ノルウェー(283社)です。欧州全体の平均は100万人につき190社でした。

あらかたの投資パターンを見る限り、欧州のスタートアップエコシステムは急ピッチで成熟しています。2016年から2020年のシードラウンドの中央値は70万ドルから120万ドルに、さらにシリーズAラウンドの中央値は390万ドルから660万ドルに増加しています。Atomicoは、これを「主要シードファンドの資金調達額がますます増加し... (中略) 主要米国VCがシードに参加して欧州に足場を固め... (中略) そして(欧州の)ファウンダーは世界の舞台で勝負できる実力を備えつつある」と評しています。

さらにEUは2021年の欧州スタートアップへの直接株式投資に向けた2億1800万ドルのファンドを設立し、欧州の資金調達環境を後押しする策を打ち立てています。これまでに審査を受けたスタートアップは177社に上ります。

北欧内での比較については、我が同胞Nordic9が2017-2020年の北欧投資家(エストニアを除く)の傾向を分析した画期的なレポートを発表したばかり。欧州で見られるようなエコシステム成熟度向上の傾向は、当然のことながら北欧諸国にも強く見られます。

また北欧でもVC投資が盛んで、投資ラウンド数は1198から751に減少したものの、投資総額は2017年の28億ドルから2020年には52億ドルとほぼ倍増しています。ファンド総額は右肩上がりで、個人VCが大型ラウンドを求める一方でシードレベルの投資は制度化が進んでいます。これは北欧のシリーズA投資ラウンド数の増加の表れで(100万ドルから500万ドル)、2020年の全ラウンドのほぼ1/3を占めています。

Atomicoが指摘する北欧投資家エコシステムの特徴の一つに、年金基金の普及の高さがあります。実際、北欧のVCは政府機関など他のLPタイプよりも年金基金からの資金調達の割合が高いのが事実です。北欧の投資家はセクター固有のテーマにフォーカスを当て、またスタートアップをその基本部分(即ちマーケティングや流通よりもチームや技術力)に基づいて評価する傾向が強まっている、とNordic9は述べています。

2020年に北欧投資家の人気を集めたビジネスに目をやると、トップはヘルステックとフィンテックでした。この二つのセクターはまさにイノベーション・ラボ・アジアがセクター別レポート用に最初に選んだ領域(クリスマス前に発行した北欧ヘルステックレポート、2月中旬発行予定のフィンテックレポート)だったという意味で、この結果は私たちにとっても快挙でした。

ヘルステックへの投資は2017年から2020年で3億4200万ドルから6億9500万ドルに、そしてフィンテックは3億4000万ドルから10億2000万ドルに増加しています。急成長中の三つのセクターは投資額が1億2100万ドルから4億2400万ドルに上昇している「マーケットプレース」です。こちらでもレポート作成は必須でしょう！

総括して言えるのは北欧スタートアップエコシステムが加速度的に成熟しているということです。全般的に企業はより統合化され、海外市場が重要視され、海外投資家の関心が高まっています。そして資金力が豊富で高い専門性を持っているのが北欧の投資家なのです。

世界的レベルで見れば、少なくともシリコンバレーやボストン/ニューヨーク、ロンドン、テル・アビブと言った誰もが知るエコシステムと比べると北欧は一部の投資家にとっては未だに蚊帳の外存在かもしれません。けれどもこれは逆に日本の投資家にとっては有利かもしれません。なぜなら北欧スタートアップは派手に宣伝されているエコシステムのスタートアップと比べて過少評価されがちなため“good deal”となるチャンスがあるからです。

各領域における北欧の主要投資家情報に関心のある方は、是非お気軽にお問い合わせください。

北欧ニュースダイジェスト

- DK 契約管理ソリューション開発のリーガルテックスタートアップ [Contractbook](#)、Bessemer Venture Partnersが率いるシリーズA投資ラウンドで約9億7800万円を調達。
- DK 消費者向けニューロサイエンス企業 [Neurons](#)、ニューロマーケティングラボと米国営業所開設に向け国内投資家から約2億5400万円を調達。
- SE 約203億3200万円のファンド獲得を果たしたばかりの [VOI Technology](#)、2020年の [Nordic Choice Award](#) で”Startup of the Year”を受賞。
- SE クラウドコンピューティングサービスプロバイダーの [Sinch](#)、ソフトバンクからの直接株式発行でおよそ406億6400万円を獲得。現在ソフトバンクはSinchの10.1%を所有。
- NO/EE ソフトバンクから約222億3800万円の調達を果たした [Kahoot!](#)、エストニアのスタートアップ [Drops](#) を買収。
- NO ドローンスタートアップの [Nordic Unmanned](#)、約12億2000万円を調達。
- FI 糖尿病治療向けスタートアップ [Virta Health](#)、Sequoia Capital Global Equitiesら投資家から約67億3500万円を調達。

「RAINMAKING」インタビュー

事業の内容や市場、分野は？

私たちはイノベーション企業です。やっていることは3つ：社内ベンチャー、企業とスタートアップの提携支援、スタートアップと大企業を結びつけるVenture Buildingというプログラムの実施です。コペンハーゲン、ロンドン、シンガポールを拠点とし、北米東海岸、メキシコ、日本、東南アジア、アフリカでも事業を行っています。

これまで色々なセクターと関わってきましたが、ここ最近「インパクト」セクターが中心です。これはSDGsの達成、サステナビリティ、サーキュラーエコノミー形成を支援するソリューションです。私たちのミッションは、独自のイノベティブプロセスと投資家の観点をインパクトのあるアジェンダにしておくこと。つまり私たちは収益向上だけでなく、持続可能な目標の達成も支援しています。

日本にも事業所があるそうですね。

大阪でStartupbootcamp Scale Osakaというアクセラレータープログラムを始めました。阪急、JT、SMBC、電通、読売新聞、さくらインターネット、JR西日本イノベーションズがパートナー企業として参画しています。

日本は世界第三位の経済大国であるにもかかわらずその市場は世界のスタートアップから見過されてきました。この状況に気付いた私たちはスタートアップ企業がこの極めて重要なマーケットにアクセスできるよう、また同時に大企業が国際間のイノベーションにもアクセスできるように支援をしよう、とこのプログラムをスタートしたのです。東京の市場はすでに飽和状態。そこで国際的なテックハブという大きな将来性が期待出来るファンタスティックな大阪なら何か有意義なことができるだろうと考えたのです。

日本企業は北欧スタートアップに投資する際の一番の障壁は？

日本の投資家にとって市場はまだ米国と東南アジアが中心です。問題は北欧がそもそもまだ日本のステークホルダーのレーダー上にすら現れていないことです。とはいえ北欧エコシステムはイノベーションのアイコンとして知名度を上げつつあり、投資家は北欧地域に次第に目を向けています。素晴らしい風潮です。日本市場に進出していく大きな足がかりになるので、もっと多くの北欧スタートアップに私たちのアクセラレータープログラムに参加して欲しいですね。

どのような日本企業やステークホルダーにアプローチを？

二酸化炭素を多く排出している産業の改善につながるような、SDGsや持続可能性、大量生産、消費材などに大きな影響を持つビジネスを全面的にサポートしていきたいです。



名前: Alex Farcet
役職: パートナー兼共同創設者
社名: Rainmaking (レインメイキング)
エコシステムの所在地: デンマーク、コペンハーゲン
連絡先: af@rainmaking.io

お知らせ

イベント 1月22日イノベーション・ラボ・アジアとTrusted社共同開催による2021年キックオフイベント「[北欧スタートアップと日本企業のオープンイノベーション戦略についてーヘルステックおよび各ビジネス分野での提携チャンスを探るー](#)」(日本語開催)。トピックはオープンイノベーション、北欧スタートアップとの提携、北欧スタートアップ成功例紹介など。開催場所はCIC Tokyo、オンライン・オフラインとも参加費無料(現地参加の場合は要申し込み)。

求人 デンマークのスケールアップQUEUE-IT、日本市場展開に向けて以下の人材を募集：[ソリューションアーキテクト\(日英バイリンガル\)](#)、[ビジネス開発アソシエイト\(日本人/デンマーク移転のサポート\)](#)、[ビジネス開発担当者\(パートタイム\)](#)。QUEUE-ITは、サイトのビジターをアクセスが容易になるまで仮想ウェイトティングルームに誘導してウェブサイトのクラッシュを防ぐ、ウェブサイトトラフィック制御のソリューションを開発する企業。問い合わせは [Haruka Kato](#) まで。

アクセラレーター [Plug and Play ジャパン・アクセラレータープログラム](#)。Plug and Playはシリコンバレーに本社を置くグローバル・ベンチャーキャピタル/アクセラレーター。2021年夏秋プログラムに参加希望スタートアップを現在募集中。2月19日締切。

編集者



ピーター・ヨハンセン
プロジェクトマネジャー
pj@asia-house.dk



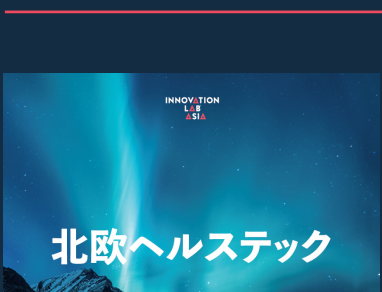
ユリアン・森江・原・ニルセン
日本担当コンサルタント
jni@techbbq.org

INNOVATION LAB ASIA

「イノベーション・ラボ・アジア」はデンマーク産業財団の支援の下でAsia HouseとTechBBQが共同で運営するプロジェクトです。詳しい内容については以下からご覧ください。



報告書(日本関連)



[全ての報告書を見る](#)

